

魔空GB通信



OVER
18age
ONLY



ふう……
最近の私の
団長さんに対する
もやもやとした気持ちは
何なのでしょ……

一度は敵対したのに
許されて……



その上
仲間として
迎え入れられも
して……

カタリナお姉さま
からのご信頼も厚い
様子ですし……



この私が
カタリナお姉さま
以外に心が動くなど
ありえないはず……

これはもう……
自分の手で
確かめなくては……



というわけで
少々失礼します
団長さん♪

えっなんで僕
こんな事に
なってるの?!

うふふ…
落ち着いてください
団長さん
何もおかしいことは
ありませんよ

かんっ

ほんっ

怖っ?!

部屋の隙間から
少々眠くなるお薬を
流し込んだだけ
ですから…

何故こんなことを
したかという
理由ですが…

私 少々自分で確認したい
事柄がありまして……
それに付き合っ
ていただきたいと思います

それに……
これは団長さんに
とっても悪いお話では
ないと思いますよ?

私が……団長さんの
性欲処理を
させていたのだきたいと
思うのですが……

えっ……
ヴィーラさんに
そんな事させる
わけには……!!

いかがでしょうか？

ご心配なく

性欲のままに
カタリナお姉さまを
襲ったりしないように……
という意味合いも
ありますから……

そ……そんな
しませんよ

では失礼して……

あ……

あ……



……男性器というものは
もつと勢いよく
雄々しく硬くなる
ものと聞いていましたが……



……あら?



どちらかというと
ふにやふにやと
頼りない感じの
ような……

お……男は
興奮しないと
硬くならない
ものでして……



そ……その手甲の
冷たさと硬さが
気になって……

……私にこれを
素手で触れと……?



仕方
ありませんね……



それは……
私では興奮
できないと……?

そ、そういう
わけではなく……



……これでよろしい
ですか？



そしてこれを
擦り続ければ
射精に導くことが
できる……と

なるほど……これが
男性器の勃起という
現象なのですか……



はあ……

はあ……ッ



団長さんも
調子が出てきた
ようですね

……ですが



うああ……
柔らかくて少し
冷たい手が
気持ちいい……ッ

はっ
はっ
はっ



私だけしている
というのも
不公平ですし……

団長さんも私にして
いただけますか？



うわっ?!



ふふ……さて
どうされるか……

ふあっ?!



こんな……
気持ちいい
なんて……

あ……

は……

自分でするのと
全然違う……!!



あ……舌で
舐められ……っ

れる

れる

れる

れる



んひっ!!



んひっ!!



いけない……
私もしごくのを
続けないと……っ



あ……出てる……



ああんっ♡

は……っあ

これが射精……
つまり男性の絶頂……
達した証……



まだまだ
物足りない...といった
ところででしょうか？

う...
す すいません...



ふふ...
まさか団長さんに
違させられて
しまうとは...



.....となる
やはり.....



.....まあ
団長さんも
上手く達せた
ようですし
よしとしましょう

.....ですが



こうするしか.....

ありませんね.....♡

ウィーラさん
未経験なんだったら
こんな事まで
しなくても……!

ですが……その……

お……お気遣いなく……
これは私が必要と
判断したことです……

自分からしておいて
お恥ずかしい話ですが
力が入らなくな
ってしま……

申し訳
ありませんが……

続きをお願い
してもよろしい
ですか……?



あ?!



じ…じやあ…
失礼します…



だ…大丈夫
ですか…?!

だ…大丈夫…

痛いというよりかは
圧迫感が強くて
驚いてしまっただけで…

続けて…
もらえますか？

クッ

クッ



……お胸
見たいですか？

あつその
はい……

正直……
見たいです……



あ……あの
ツイーラさん
その……



これで……
いいですか？

ふふっ……

すっ……すっ……
綺麗です……っ！

す……すっ……
柔らか……っ！

ま まあ私も
身体つきには
少々自信が……

あっ♡



おにやう

あ

あ



じっ…
自分でするのと
全然違って…!!

あ



な…なに?!

あ

あ

あ



きつ…気持ち…
い…っ?!

あ



お腹の中が
熱く…
疼いて…っ!!

あ

あ

あ



だ…ダメ…ッ
これ以上
続けたら…

ても…っ
もっと…!

はっ…あ♡

あっ♡

すすいません
もう僕…

出ちやい
そうで…

えっ?!

ふわっ

たろん

たろん



やめないで……っ!!

や……っ

ひゅうっ!!

急に……
おっ……までえっ

ガッガッガッ



思いっやり
中に出し……

は……
はあ……っ

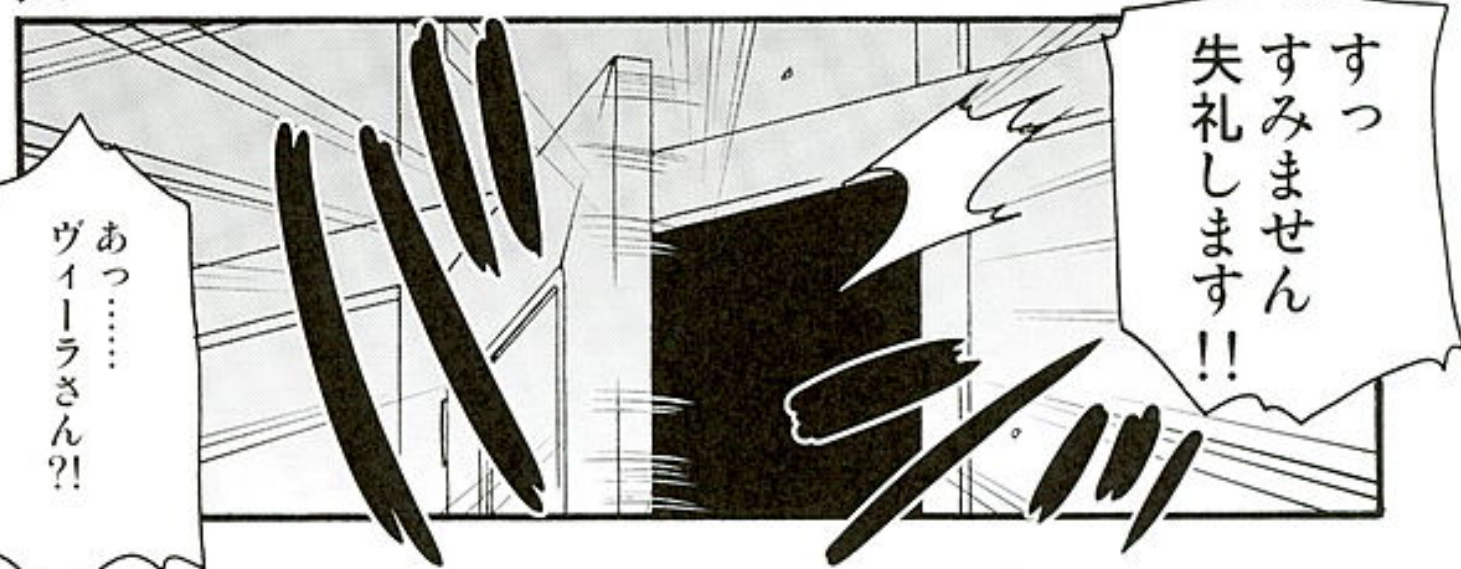
す……すいません
ヴィーラさん……

……え？



ん……っ

……ッ!!



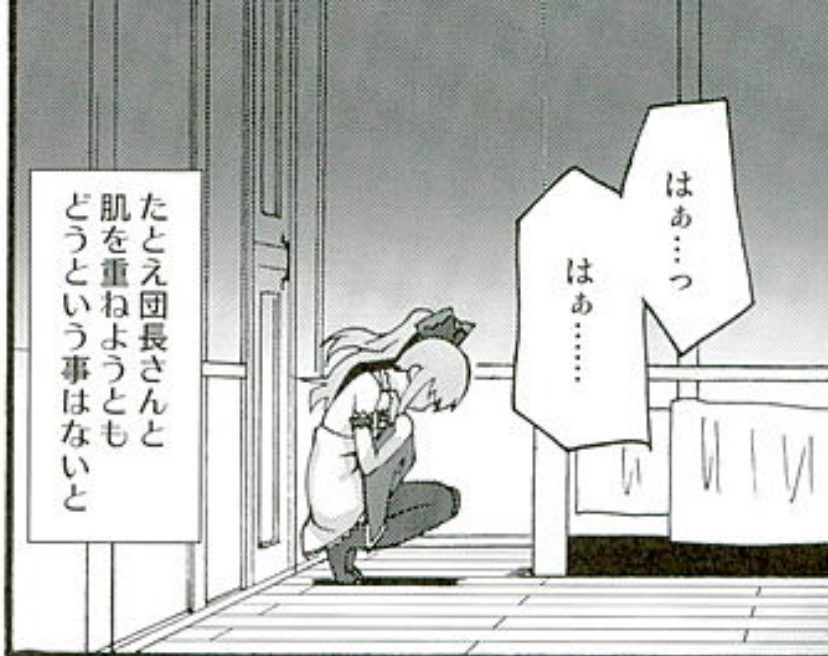
すつ
すみません
失礼します!!

あつ……
ヴィーラさん?!



それを自らに
証明するために
行ったはずなのに……

……それなのに



はあ……っ
はあ……

たとえ团长さんと
肌を重ねようとも
どうという事はないと



自分から唇まで
求めてしまうなんて……

これではまるで
自分からとどめを
刺されに行った
ようなもの……

私を蕩かせ
続けている——

唇とお腹に
残った熱が

一時の気の迷い
だったということに
したくとも

魔
軍
軍
團

